

今、若者たちへ

君に伝えたい私の経験

クラレ社長

和久井 康明さん

就職に際し、トップの人格的な魅力に引かれて会社を選んだというクラレの和久井康明社長。自身その立場に置かれている今、若い人には「ああいう人が社長になっている会社なら好きなことがやれそう。格式張らない自由闊達(かつたつ)な社内の雰囲気は認められれば、それに越したことはない」とさりりと笑う。入社後の体験に照らし、若者に望むことを語ってもらった。

PDCAを实践 ようやく達成感

学生時代は授業はほとんどに、図書館で新聞や雑誌、本を片っ端から読んでいました。成績はそこそこ、部活はやっていない、アルバイトに精を出したふうもなく、話をすれば生意気な口ぶり、就職活動では一番魅力に乏しい学生だったでしょうね(笑)。

そういう私が当社に興味を抱いたきっかけは、当時の大原総一郎社長です。新聞や雑誌への執筆、テレビ、ラジオへの出演で会社よりも社会的知名度が高い経営者であり文化人でした。当社から環境問題や企業の社会貢献にいち早く発言していました。

当事者意識持ち 随所に主となれ

連携でスピード速まり 広がる世界



入社した1965年、同期と一緒に四国の石鎚山に登る(本人は右端)

一九六三(昭和三十八)年の秋ごろ岩波書店の雑誌「世界」に中国に対する戦後自由主義経済圏からの初試みとなるビニロンプラントの輸出について寄稿していました。プラント輸出という言葉にさえないじみない学生でしたが、「競争で日本が中国にもたらした荒廃と悲惨の償いになれば……」との考えに共感しました。私企業とはいえもうけ主義だけではないその企業姿勢に引かれ、こういう社長の下で仕事をしたいと思って入社したのです。

ところが、初任地は愛媛県西条市の工場。給与計算が仕事で、当時はそろばんを使った地道な作業でした。「おれみたいな者をそんなことに使うのはもったいない(笑)」と、転動したくて仕方なかった。二年半ほどいて、次が新潟県中条町(現胎内市)の樹脂工場。ここでは従業員の採用や教育、福利厚生など庶務的な仕事を中心。人とかかわる機会が増えたものの、社宅の子供たちのために秋にはイモ掘り大会や遠足など、会社の本業を側面からサポートする仕事です。正直なところ充実感はずっと持てなかった。ただ今にして思えば、いろいろ

ろな職場の人たちと接触し、さまざまな応用動作が求められる仕事は、非常に得難い経験だったと思います。

そうした中、一つの転機となったのは入社十四年目ごろ、不採算部門の清涼飲料水販売の子会社への出向です。従業員の受け皿を探し、事業を売却して撤退しました。それまでは机上で計画を練るだけの仕事でしたが、初めて自分で行動を起こし、交渉を進めていく立場に立たされた。中小企業だから一人何役も担当する上に、極秘計画なので相談できる人はいない。自分の力でいろいろな問題を解決していくことを身をもって学びました。まさにPDCA(プラン・ドゥー・チェック・アクション)をやくり逃げ、ようやく達成感を感じることができました。

マズローの欲求五段階説に当てはめれば、上から二番目の尊敬・承認の欲求は満たせました。周りから認められることで十分達成感が味わえ、それが次の仕事のモチベーションにつながる。ことが分かって、理想的なことばかり求めなくなった気がします。ちなみに五段階説の一番上は自己実現の欲求。会社には会社目標があり、社員にもそれに応じた役割がある中で、自己実現に少しでも近づいていくことが理想ですね。

自分の得意領域 人とのつながり

そのために大切なことは、どんな仕事、役割に就いても、当事者意識を持つことです。「随所に主となれ」という言葉がありますが、自分から主体的に参加し、周りの意見を聞きつつ、最終的にはそれらを束ねて実行に移していく。もし失敗すれば責任を取る。そういうことになって鍛えられ、能力がついていく。それが当事者能力といえるのです。単に自我が強いとか、評論家的な現状分析とは違います。私はそういう観点で人間を見ますね。

それと、どんなことでもいいから、これなら人後に落ちないという何かに取り組んでほしいですね。自分に自信を持てるし、同僚の士気も上がります。これはビジネスの世界でも、他者とのコラボレーションによってスピードがアップし、世界も広がります。若い人はそのことを絶えず意識して、その有り余るエネルギーと行動力で、随所に主となって羽ばたいていくことを期待しています。

広告

企画・制作
日本経済新聞社広告局

この特集は会員制サービス、日経ネットPlus (<http://netplus.nikkei.co.jp/>)と連動しています。ぜひ、登録してコメントをお寄せください。コメントは連載の終わりに紙面で紹介する予定です。採用の際にはプレゼントを贈呈いたします。



ミラバケ(ツ)ソ

それは、「未来に化ける新素材」。私たちクラレの新しいキャッチフレーズです。きのうよりもきょう、きょうよりもあしたの世の中がいい方向へ変化していくように。独創の化学技術で、新しい素材をつくっていく。たとえば、未来の医療の可能性をグッと広げる人工筋肉素材の研究だったり、未来の夜道をパッと明るくする光源素材の開発だったり。他のだれかにはあきらめても、やがて来る世の中と、そこに生きる人のためにきつといい未来に化ける新素材をつくってみせる、という約束。そのために私たち一人ひとりも化けていこう、という自分へのかけ声。ミラバケ(ツ)ソ。さあ、あなたもいちど口にしてみてください。なんだか、未来へ向かってココロが動き出しそうなリズムでしょ。

それは、ミラいにバケる新ソ材。クラレがつくっていきます。

未来に化ける新素材。

kuraray

株式会社 クラレ

<http://www.kuraray.co.jp/>
東京本社 〒100-8115
東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル
TEL (03) 6701-1000(代表)
大阪本社 〒530-8611
大阪市北区梅田 1-12-39 新阪急ビル
TEL (06) 6348-2111(代表)